

ことう地域チームケア研究会

たより

令和4年3月31日発行

つながろう 話そう
ウェブ de 研究会

第54回 ことう地域チームケア研究会を開催しました

◆開催日時: 令和4年3月10日(木) 18:30~20:30

◆参加者: 54名(医療関係19名、福祉関係17名、行政・その他18名)



ねらい

- ①地域にあるさまざまな課題を多職種で共有しよう。
- ②こんな時どうする?何ができる?さまざまな視点で考えてみよう。
- ③専門職同士、互いの強み・弱みを知り、連携力を高めよう。

「事例検討 de チームケア」

【担当世話人団体】彦根愛知犬上介護支援専門員連絡協議会

高齢者の多問題を抱えた家族の支援 専門職の役割を考えよう

様々な高齢者問題

独居(身寄りあり) / 独居(身寄りなし) / 高齢世帯
老老介護 / 認知症高齢者 / 認認介護 / 介護難民
虐待 / 孤独死・孤立死 / ゴミ屋敷 / 生活困窮
生活保護 / 金銭管理能力の低下 / 悪徳商法などの犯罪
アルコール中毒 / 精神疾患 / 8050 問題・7040 問題世帯
ダブル介護 / ヤングケアラー / 同居孤独死
多頭飼い飼育崩壊

本日の事例検討会の流れ

- 10分間 事例検討会の説明
- 15分間 ケアマネジャーから事例説明
事例説明を受け、事例をイメージしてください
- 15分間 グループで質問を考える
興味本位ではなく、事例を深めるための質問
- 20分間 質疑応答
一問一答形式で、具体的な質問をする
- 25分間 グループディスカッション

事例のテーマ

多問題を抱えた家族の支援

事例を選んだ理由

多問題を抱えたケースは珍しいことではないが、
実際支援をするとなると、悩むことが多く、困難
事例と決めつけられてしまうこともある。
支援をするために、何が必要か、其々の立場から
何ができたのか、多角的に専門職から意見が聞きたい。

今回の事例における高齢者問題

- ・ 8050 問題世帯
- ・ 生活困窮
- ・ 多頭飼い飼育崩壊
- ・ ゴミ屋敷
- ・ コロナ感染拡大による影響

事例を聞いてどのように感じましたか。

- ◆薬剤師「病気だけでなく問題を抱えている患者さんが多いと思いました」
- ◆看護師「支援拒否が、一番困難なケースであると感じます」「多問題を抱えている方が多い。行政を含め関係機関との連携や協働が本当に重要だと思いました」
- ◆介護サービス「まず大変だと思った。大都会の話ではなく身近に起こっている現実を知らされた」
- ◆歯科医師「難しい問題だと感じた」
- ◆介護支援専門員「本人の支援も大切だが家族支援が必要なケースにケアマネとしてどのようにどこまで関わるか再度考えさせられた」「介入することの難しさを感じました」「コロナ過での対応の難しさ、本人、家族との信頼関係を得る難しさを感じました。介護サービスでできる限界、公的機関で強制力がないと踏み込めない問題も多いと感じました」
- ◆地域包括支援センター「自分だったら、どうしていただろうと思いました」「多問題を抱えている方に対して、行政や社協・包括支援センター等と連携し、ケアマネだけで抱え込まないようにすることが必要と感じました」

意見交換(グループディスカッション)

それぞれの職種や業種の立場から、このような事例に対して、どのような関りができるか等、意見交換を行いました。一部をご紹介します。

それぞれの専門職として、
どう考えるのか、何ができるのか

地域や様々な関係機関へのアプローチ・つながり

- ・支援者を探す、増やす
 - ・どこかで誰かと繋がっていないか探す
 - ・誰になら心を開くか、関係性を探る
 - ・地域の民生委員さんや地域包括支援センターも一緒に
 - ・親(要介護者)が亡くなった後も、問題を抱える家族(介護者)には、継続的にかかわりがもてるよう、関係機関につなげていけるとよい。
- ⇒対応できる関係機関をいかに増やしていけるかが大事
⇒関係機関を巻き込み、いろいろな方の知恵を集める
⇒ケアマネ自身の支援者を増やす！
⇒専門職だけで抱え込まない

本人や家族と会えない場合、何ができるのか…

「かかりつけ」からのアプローチ

- ・通院が難しくなってもかかりつけ医があることでつながるのでは。
 - ・かかりつけ医師から声を掛けてもらうことで他者との繋がりを持っていただけるかもしれない。
 - ・主治医からのアプローチで訪問看護につなげられるかもしれない。
 - ・歯科医師も、診察時に本人から介護者の悩みや生活に対する意向をお聞きすることがある。
 - ・義歯を使用されている場合、歯科からも様子を確認できるとよいのでは。
- ⇒元気なうちから、「かかりつけ」をもち、つながりを作ることが大事。
⇒医療福祉専門職、関係機関として、「かかりつけ」の大切さについて患者及び家族(地域住民)に発信していくことが必要。

信頼関係を築けるようにするには…



本人や家族への関わり方について

- ・本人や介護者のできることに注目して関りを持てるとういのは。
- ・本人を肯定し、良くなったところを本人に伝えながら関わっていけるとよいのでは。



事例検討に参加して…こんなこと思いました



- ◆在宅に参加したことがほとんどないため、実際の事例を教えてくださいとこんな事があってどのように解決されているのかを知る事が出来て大変勉強になっています。
- ◆歯科衛生士は井の中の蛙で地域のことや多職種の役割についてまだまだ理解できていないものが多い。もっと地域や多職種にも目を向けていくようこの研究会の周知を行いたいです。
- ◆目的や目標など、中心に据えるものを共有することから始まる、ということ。
- ◆口腔内の環境を良くすることで食欲増進し、生活の質も向上すると考えるため、訪問歯科などで寝たきりの患者さんの口腔ケアを行いたいと感じました。
- ◆自分とは違う視点や、気づかないことを意見としてもらえるので、参考になります。
- ◆自身の立場からの関わり方や、他職種の理解を深める上で、今回のような事例検討会も良かったと思います。
- ◆今回の事例を聞いて自分の住んでいる地域にも同じような状況の家庭があるなと思いました。地域住民としては実際関わらないようにしていたところがあったので今回支援者側として事例検討をさせていただいてすごく難しい問題だなと感じました。とても視野が広がりました。
- ◆介護支援専門員や介護保険制度だけでは支援出来ない諸問題も多い中、多職種と協力しながら支援する事が大切だと思いました。

ホームページ「在宅医療福祉情報の森」で
次回研究会の情報をご覧いただけます。

在宅医療福祉情報の森



で検索。



【研究会に関するお問い合わせ】

ことう地域チームケア研究会事務局

◆(社)彦根愛知犬上介護保険事業者協議会
(TEL 49-2455 E-mail:info@gen-ai-ken-kaigo.jp)

◆彦根市医療福祉推進課 (TEL 24-0828)

